

巻頭言 「春の嵐」

宇野 元

「素晴らしい五月」に咲くばらは、たいていいつも、開花のタイミングで試練を受けます。雨と強風。今年は猛烈な風が吹き荒れました。牧師館の前のばらも細枝が折れ、花卉と葉が傷つき、ふくらんだ蕾が幾つも散らされました。けれどもいま、難をのがれた花たちが憂いなく咲いています。建物の南側にあることが幸いしたと思います。

リルケ以前のばらの詩人、ヘルダリーンの詩を思い起こします。

薔薇よ！ 私たちの装いは古くなる
嵐が、お前の、そして私の葉を落とす
しかし永遠の芽が萌え出て
やがて新しい花がひらく

聖書が伝える聖霊降臨は、尋常でない出来事とともに記されています。「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた」（使徒言行録 2, 1.2）。暴風が打ち叩くような音。聖書の記述を虚心に読むとき、桁外れの力がそこに働いていることが感じとれるでしょう。嵐に見舞われるよう。いわゆるよきものがやってくるというのと異なる印象をあたえられます。これは何と重なるのだろうか？ そう思い巡らすようみちびかれます。

この出来事は、旧約聖書のヨブの体験を想起させるでしょう。ヨブの人生は突然の大風によって一変しました。「五旬祭」、すなわちペンテコステの日に集まっていた人たちは、まるで災いに見舞われたかのようです。また、このときの轟音は、私たちの罪の力を思わせるでしょう。なによりその激しさと、誰もが免れられない力において。さらに、私たちの思い巡らしは、もうひとつの特別な体験を思い起こすようみちびかれます。

私たちを激しく揺さぶる体験は、世界の矛盾に巻き込まれる痛みや苦しみ、悲しみも含めて、イエスの苦難のなかに受けとめられています。そしてなんと驚くべきことでしょう！ 罪と死の力に打ち勝つ強い力がイエスの復活によって証しされています。その力はどれほど大きな力なのでしょう。イエスにある恵みが、聖霊降臨の出来事のうちに示されます。